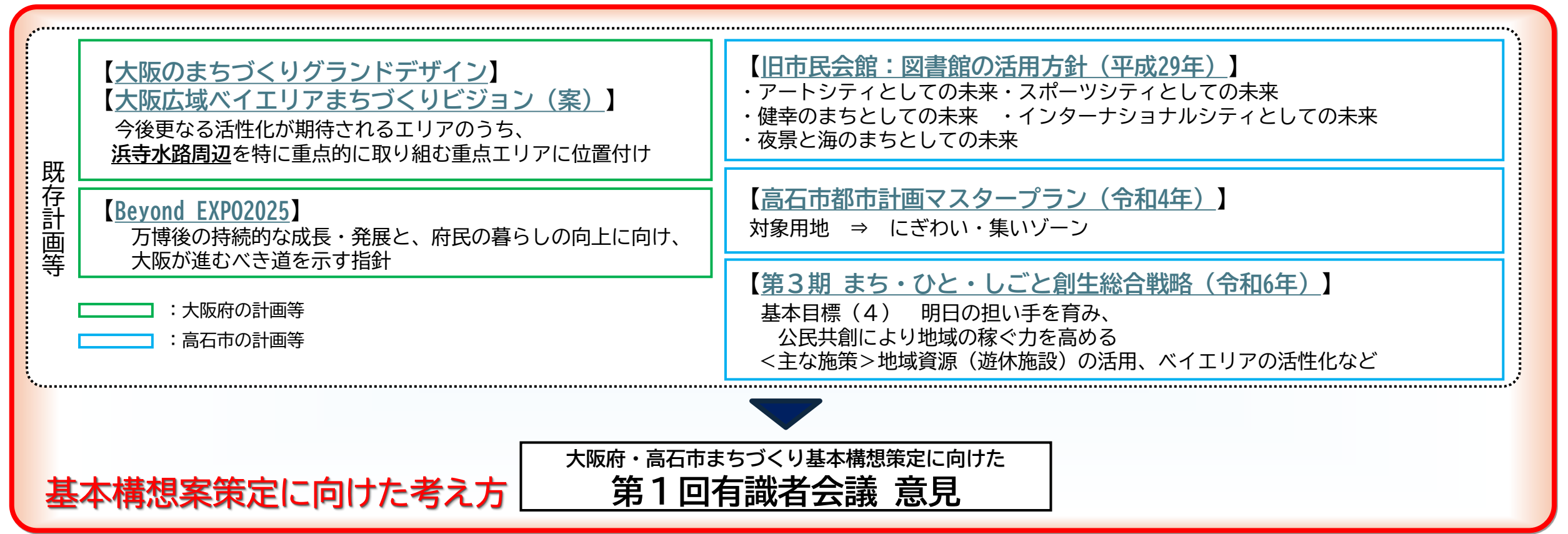


サウンディング調査実施段階において、大阪府・高石市の既存計画等を前提に「大阪府・高石市まちづくり基本構想策定に向けた有識者会議」での意見を取りまとめ、基本構想案の方向性を示したものの。



サウンディング調査実施

大阪府・高石市まちづくり基本構想案

- 「大阪のまちづくりグランドデザイン」において、今後更なる活性化が期待されるエリアとして浜寺水路周辺を重点エリアに位置付け
- 「BeyondEXP02025」では、ベイエリアの活性化など「海」でのにぎわいを創出し、周遊性を向上させることを掲げている



【2050年の大阪広域ベイエリアがめざす姿】

＜世界中の人をひきつける文化・観光エリア＞

- 世界第一級のエンターテインメントと大阪・関西の歴史・文化が融合した国際観光拠点に国内外から多数の人が来訪
- 新鮮な海産物や農産物など、四季折々の多様な“食”を提供
- 多様なサービスにより、1日中ベイエリアの魅力を楽しみながら滞在
- ベイエリアのスポーツ施設や広場で、国際的なスポーツ大会やイベントが一年中開催
- 海上交通やエアモビリティにより日本各地を自由に往来
- 観光船や自転車により、季節ごとに変化するベイエリアの魅力を楽しみながら周遊 等



IRを核とした新たな国際観光拠点の形成



百舌鳥古墳群やだんじりなど歴史・文化資源や伝統的な祭りを活かした交流拠点の形成

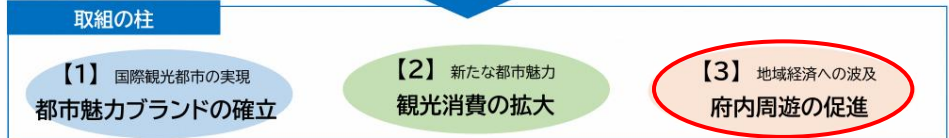


大阪湾内や瀬戸内海等の拠点を結ぶ観光ルートの形成

※【大阪広域ベイエリアのまちづくり】p9「3. 大阪広域ベイエリアがめざす姿と取組みの方向性」抜粋

基本的な考え方		
万博レガシーの継承 ■万博レガシーを活かした魅力づくり ・万博期間中、会場内外では、様々なイベントが連日行われ、非日常空間を演出 ・万博後においても、万博で世界に発信された大阪の魅力、ブランドイメージの継承が必要 ■世界に通じる多彩な魅力の創出 ・新たな価値や都市魅力の創出が必要	日本を代表する広域観光拠点 ■豊富な観光資源と国際インフラ ・大阪には食や歴史、文化、芸術、スポーツ等の観光資源が豊富（大阪産（もん）、大阪城や百舌鳥・古市古墳群などの文化・歴史遺産、上方芸能、水都大阪、USJなど） ・京都や奈良等の人気観光地が1時間圏内 ・西日本の空のゲートウェイである関西国際空港	増加が見込まれる旅行者 ■多くの来阪外国人旅行者など ・来阪外国人旅行者数 大阪②1,409万人➡③2,300万人（目標） 全国③3,687万人➡④6,000万人（目標） ・延べ宿泊者数（国内・海外） 大阪⑤5,743万人➡⑥6,700万人（目標） ・消費単価 外国人⑦9.2万円➡⑧10.2万円（目標） ※目標は大阪都市魅力創造戦略2030（案）で検討中の数値

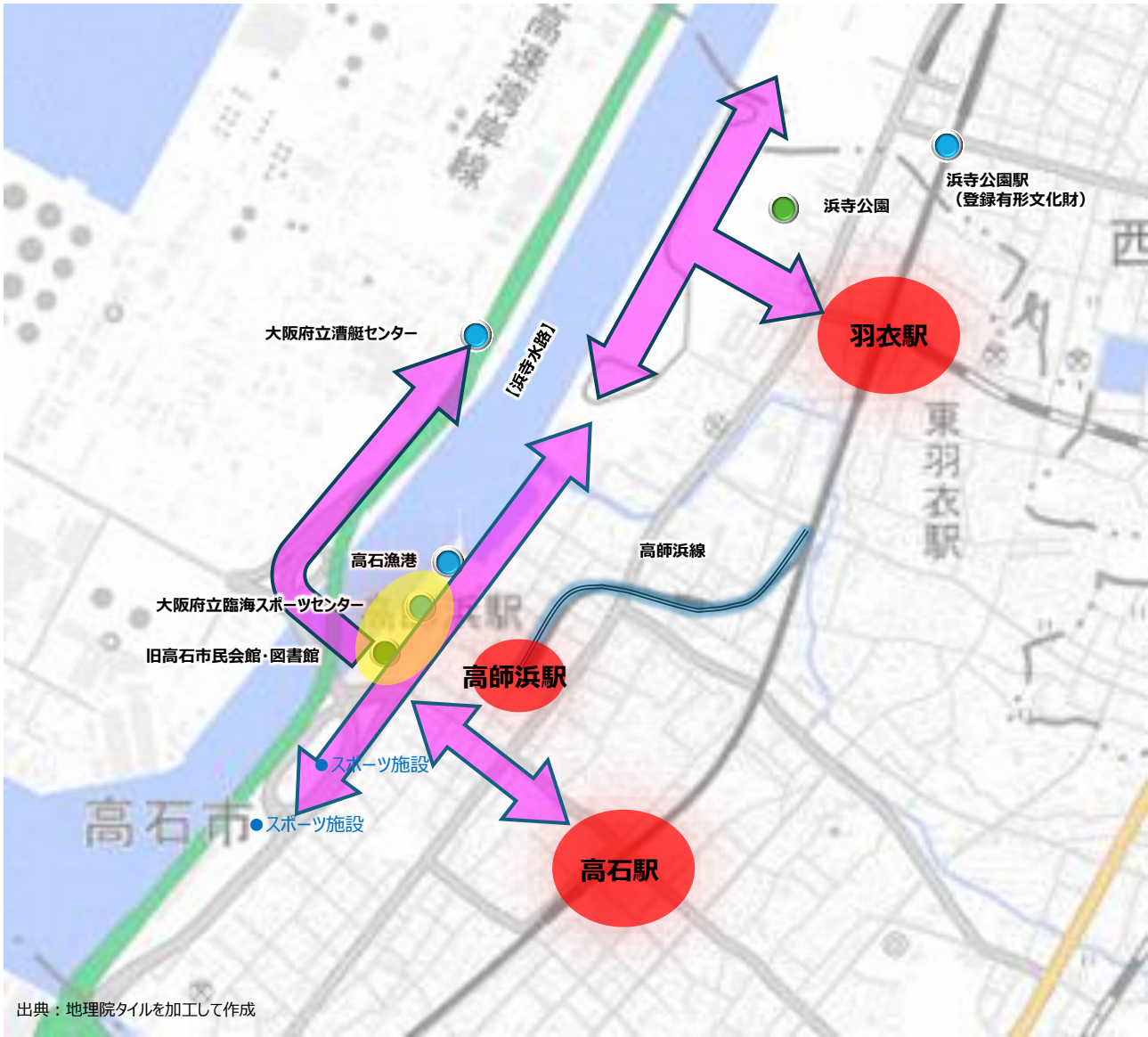
大阪ならではの魅力を一段と高め、世界の中での都市プレゼンスを高めるとともに、観光消費の拡大と地域経済への波及をめざす



※【大阪のまちづくりグランドデザイン】p46「海・川・山や多様な地域資源を活かし、地域を活性化」抜粋

※【BeyondEXP02025】p28「大阪独自の魅力を発揮したワクワク・オモロいを掻き立てるエンタメ都市」抜粋

➤ 大阪広域バイエリアにある多様で多彩な地域資源や既存ストックの個性をみがくとともに、新たな資源や魅力を創出する取組みを進めることで、各地域の個性を活かしたまちづくりを促進する



- 南海本線高架化によるウォーカブルな駅周辺整備
- 旧市民会館・図書館跡地へのにぎわい・集客施設の誘致及びイベント実施による賑わいの創出
- 臨海スポーツセンター、漕艇センター、浜寺公園との連携
- 高師浜駅周辺の活性化（駅舎のライトアップ等）
- 高師浜運動施設のリニューアル（スケボーパーク、3X3）

- 「旧市民会館・図書館の活用に係る検討会(平成28年度)」において、一般向けアイデア募集および事業者へのサウンディング調査を行ったうえで、一定の方向付けをしたもの。

①アートシティとしての未来

アートシティ構想として提案されたアイデアは、世界の都市を参考としながら、パフォーマンスの拠点を形成することで、インバウンド観光客のナイトライフを創出しつつ、アーティストの育成を行うという世界標準での充実した提案であった。高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略において柱となっている文化・教育という観点からも広がりがあり、市全体をアートシティとして変革していく可能性を秘めている。

②スポーツシティとしての未来

旧市民会館・図書館は大阪府立臨海スポーツセンターや高師浜運動場に隣接するなど、市のスポーツゾーンというべき地域に立地しており、スポーツ関連施設とすることで地域性を踏まえた活用が可能である。具体的には、自転車でのツーリングやスポーツクライミングなどの新たなスポーツの拠点とするほか、周辺のスポーツ施設利用者の需要を踏まえた合宿施設などのスポーツ関連利便施設として活用することも考えられる。今後の周辺環境としては、大阪府立臨海スポーツセンターの改修による機能強化、更に視野を広げ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年の関西ワールドマスタースゲームといったスポーツ振興の機運の更なる高まりが見込まれ、発展的な活用が期待される。また、浜寺水路を活用したアクティビティや水上スポーツの拠点とすることで、敷地内に限らない広域的な活用につなげることも可能である。

③健幸のまちとしての未来

高石市は“スマートウェルネスシティたかいし”を目指し、健幸ポイント事業などの様々な取組を行ってきており、平成29年4月には健幸のまちづくり条例が施行された。その取組を発展させ、“健幸”をモチーフに、温浴施設などの日常的な集客機能も組み込みながら、市の健幸づくりの拠点及び近隣市町村を含む住民への啓発・PR拠点として活用していくことが考えられる。周辺に同様の拠点は見当たらないことから、広域的な集客も図ることができ、健幸のまちとしての市のブランドづくりにつなげることが期待される。

④インターナショナルシティとしての未来

旧市民会館・図書館の所在する高師浜地区はかつて日露戦争における捕虜の収容所を有していた歴史をもつ。また、臨海部の埋め立て前には、高級別荘地として栄えた地区でもある。これらの歴史も踏まえつつ、インターナショナルスクールを設置し、インバウンド観光客の旅行拠点などに活用していくことで、外国人が住み、交流する街として発展していく可能性が考えられる。関西国際空港からのインバウンド観光客は近年急激に増えてきており、今後、更に国際交流が深まれば、外国人の定住需要も高まってくると考えられる。高石市は、そうした需要の受け皿として、国際交流都市となる可能性をもっている。

⑤夜景と海のまちとしての未来

高石固有といえる主な観光資源として、工場夜景と海の水路である浜寺水路があげられる。これらの資源を最大限活用し、国内外からの観光客を集める施設として活用していくことが考えられる。近隣に漁港がある利点を活かし、獲れたての海の幸を味わえる場所としていくなど、土地柄を活かした活用をすることで、集客性を確保していくことができると思える。

- 「第3期 高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和6年)」では、具体的な取組の全体像として、以下の「新たな視点」を掲げている

新たな視点

デジタル技術の活用

デジタル技術は、地域社会の生産性や利便性を飛躍的に高め、産業や生活の質を大きく向上させ、地域の魅力を高める力を持っており、社会の変化や課題の解決の切り札となるだけでなく、新しい付加価値を生み出す源泉です。様々な分野において、地域の実情に応じたデジタル技術の有効活用により、デジタルトランスフォーメーション（DX）を強力に推進することが求められています。

本市では、電子申請の活用や健康増進アプリなど、市民サービスの向上に努めるとともに、デジタル社会に対応した効率的な行政運営に努めます。

選ばれるまちに向けてのマーケティング戦略

全国で人口減少・少子高齢化が進む中、市民の皆様が生活を営む場所として高石市を選んでいただくため、市民の声を市政に的確に反映させることが必要です。そのため、民間企業のマーケティング手法を活用し、多様化するニーズを調査・分析します。問題点や改善点などを整理しながら、行政課題の抽出に取り組みます。

本市では、施策の検討段階において、市民のニーズや本市の強みを的確に把握し、必要な時に必要なサービスを提供できる体制を整えてまいります。

ヒトやモノのグローバルな交流

万博のインパクトを活用し、外国人観光客の受け入れによる交流人口の増加や外国人材の活用、また文化芸術や地域が有する資源を活かした魅力発信など、国内だけでなく国外へもヒトやモノの交流を推進します。こうして、にぎわいと交流人口の拡大を図ります。

本市では、国際的に活躍できる人材の育成に向けた英語教育をはじめ、文化芸術や地域が有する資源を活かした魅力発信など、外国人観光客の受け入れによる交流人口の増加を目指してまいります。

地域間・広域連携

地域ビジョンの実現のためには、地域の実情や資源等を踏まえつつ、国等の支援を組み合わせ有効に活用していくことが重要です。人口減少・少子高齢化などの構造的な制約により行政コストが増大する一方で、利用可能な資源は限られています。さらに、複数の自治体に共通の解決すべき課題が存在する地域もあります。このような状況の中で、各地域が抱える課題を解決し、地域ビジョンの実現を図るためには、単独の自治体で取り組むよりも、複数の自治体が連携して効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことが重要です。

本市では、泉大津市、忠岡町との2市1町による広報紙や福祉バスの連携をはじめ、今後も様々な分野において連携を進め、さらには泉州地域単位での連携にも取り組んでまいります。

○大阪府・高石市まちづくり基本構想策定に向けた有識者会議（R8/5/29開催）における各有識者からの意見について

<橋爪 紳也 氏(座長)／大阪公立大学研究推進機構 特任教授>

- ・大阪湾のバイエリアをつなぐ交通ネットワーク（リング）の中に、対象区域を位置付け、「**国際**」「**世界**」というコンセプトは必要。
- ・30年、50年のスパンでバイエリアが新たに再創造される（上書きする）タイミングに対象区域を集客拠点として位置付けることが重要。
- ・対象区域の**歴史(履歴)**を語らないと他地域との差別化は図れない。次の世代を作ってきた場所（世界的なスポーツ選手の育成を担ったスポーツ施設等）として、万博レガシーのように、それを次の世代へと継承するという**未来志向の時間概念**の視点が重要。
- ・水辺に面したエリアで様々な交流が行える場所として**新しい時代の「浜」**というイメージをコンセプトに入れる。

<田村 匡 氏／大阪成蹊大学経営学部 教授>

- ・個人の健康からより良い街での暮らしまで様々なレベルの中で、「**ウェルネス**」「**ウェルビーイング**」はスポーツの世界でも注目されている。
- ・アリーナは、市民には好意的な施設ではあるが、府内外の地域で建設の動きがある中で、民間事業者から、未来志向の提案があるか懸念。

<杉本 容子 氏／一般社団法人水辺ラボ 代表理事>

- ・インバウンド需要として「**ヘルスケア**」は今後伸びていく。
- ・**水辺の環境を活かしたスポーツ**（レースの開催等）は可能性がある。
- ・臨海スポーツセンターが寄付で残った施設であることを忘れず、この土地や人々の履歴である市民コミュニケーションをコンセプトに入れる。
- ・**環境配慮**の視点は大きなテーマ。環境負荷を軽減しながら良いものを受け継いでいくという考え方は大事な視点。

<まちづくりの3つの視点>

1. 広域的に見た立地環境、交通インフラを活かしたグローバルなまちづくり
2. 歴史を次世代に継承する未来志向のまちづくり
3. 水辺を活かした新しい時代を見据えたまちづくり

<視点を組み合わせたコンセプト案(例)>

- ・関空や夢洲IRをつなぐバイエリアの国際的な集客交流拠点
- ・海浜リゾート（浜寺公園）の歴史を継承した新たな「浜」の創造、次世代型のウェルネスツーリズムとしての目的地
- ・水辺の環境を活かしたスポーツ、アート、ヘルスケア等のウェルネス及びウェルビーイングが実現できる施設を有するエリア
- ・市民に受け入れられてきた歴史を継承し、環境負荷に配慮した集客交流拠点

サウンディング調査結果や、まちづくり連携協議会での議論を踏まえ、
『大阪府・高石市まちづくり基本構想案』策定へ